

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 地域の催しには参加させていただいているが、今後は事業所から地域交流に向けたイベント等の開催を考えていきたい。	夏祭りの開催、『千寿カフェ』のオープンなど、地域の方が気軽に参加出来るようなイベントを計画・実施し、日常的に交流する機会を作る。	これまでどおり地域の行事には積極的に参加し、周辺の住民に施設の存在を知っていただく。また、運営推進会議や『千寿便り』でイベントの開催をPRし、地域の方にも参加していただけるように働きかける。	6ヶ月
2	35 (17)	○災害対策 実際に火災や地震、水害等の災害が起きた場合に備えて、普段から地域の方々との協力体制を築いておく必要がある。	火災や地震、水害等の災害が起きた際に、近隣の方々と連携して救助、避難活動を行うことが出来る。	火災や地震、水害等の災害時に地域との連携が図れるように、運営推進会議等で自治会長や民生委員に協力を呼び掛ける。	6ヶ月
3	26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 入居者やご家族の意見・希望をふまえながら、計画作成担当者が作成しているが、アセスメント→実施→モニタリングの一貫性に欠けている。	入居者やご家族の意見・希望をふまえながら、計画作成担当者、居室担当者を中心に、職員みんなで補完しながらケアプランを作成する。	カンファレンス時に行っている居室担当者からの入居者の現状報告をもとに、職員間で意見交換した内容等を介護計画の作成に反映させる。	12ヶ月
4	8 (7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 権利擁護に対する意識や理解度が職員によって異なり、十分に理解しているとは言えない。	権利擁護に関する勉強会を開いたり、研修に参加できる機会を増やし、職員の意識や理解度を高めていく。	権利擁護に関する研修等に参加した職員が、会議やミーティングの場で発表する機会を作るほか、地域包括支援センター等に制度や具体的な事例等についての勉強会の開催を依頼する。	3ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。